第11回　多摩市自治推進委員会　要点記録

日　　時：令和５年８月５日（土）１５：００～１７：００
場　　所：多摩市役所３階　特別会議室
出席委員：大杉覚委員、小山弘美委員、寺田美惠子委員、林久美子委員、塩沢泰弘委員、丸茂嶺介委員
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：合同会社 MichiLab 高野義裕代表、
　　一般社団法人コミュニティネットワーク協会 渥美京子理事長
事 務 局：田島市民自治推進担当部長、伊藤健康福祉部長
　　西村企画調整担当主査、荒川
傍 聴 者：１名

議事次第：配付資料「第11回　多摩市自治推進委員会　議事次第」のとおり

１　開会

委　員　長　　第11回第八期多摩市自治推進委員会を開催する。
　　まず、事務局から資料の説明をお願いしたい。
　　事務局より、配布資料（前回の要点記録・次第・資料27～29・参考資料１～６）の確認を行った。

委　員　長　　次に、第10回委員会の要点録の原案について、修正はないか。
　　修正はないようなので、これで確定とする。
　　委員名を特定しない形で市公式HPや行政資料室等で公開される。

２　モデルエリアでの検討状況報告

委　員　長　　次第２の「モデルエリアでの検討状況報告」に移る。前回以降のモデルエリアでの活動内容と今後の取組み、現在進めている総合計画改定等関連する市の動きについて、まず事務局から報告をお願いしたい。
　　事務局より、資料27・参考資料１～３に基づき報告

委　員　長　　続けて事業に参加された委員、また、オブザーバからそれぞれのエリアでの活動の報告についてご発言をお願いしたい。

委　　員　　東寺方小学区のエリアミーティングに参加したが、参加して非常に良かった。東寺方地域を中心とした多摩市の歴史の話を改めて聞き、普段何気なく通っている道や地名の由来等を知ることができ、地域に愛着が湧いた。無作為抽出で案内が届きエリアミーティングに参加された知り合いの方とその日の夜に飲みに行ったが、その方も地域の歴史を知ることができ非常に良かったと話されていた。多摩地域は約25,000年前から人が住む地域と説明があったが、古くから人が住むような住みやすい地域であると改めて感じた。また、地域の歴史を知ることで日常の中での地域の見方、感じ方も変わり、より地域に愛着が湧いたものと思う。

委　員　長　　ありがとうございました。続けてオブザーバーよりご発言お願いしたい。

オブザーバー　　諏訪中学区では、今年度に入ってからは基本的には地域福祉推進委員会の取組みをサ

ポートするような形で関わっているが、広報の仕方を工夫するなど、もう少し運営部分にも関わりたいができていない。６月１７日に開催されたはっけん隊は、参加が４組であった。現状、地域福祉推進委員会への参加者が固定化されているとともに、既存の活動者も含めて参加者自体も徐々に減ってきている等、課題を抱えている状況である。今後何か新しいことを起こしていけるよう９月３０日開催のエリアミーティングでは力を入れて開拓していきたいと考えている。

青陵中学区では、エリアミーティングの反響がかなり良かった。参加者のうち３名の方が若者会議のコアメンバーに入られた。また、その後７月２９日に開催したＢＯＯＫさんぽと同じ日に、例年ランタンフェスティバルを主催する日本総合住生活㈱（以下、ＪＳ）が開催したビールづくりのワークショップにもエリアミーティング参加者が参加されて盛り上がったなど、ＪＳと連携しながら地域の人に興味を持ってもらいやすいコンテンツや企画運営ができていることが良い影響として出ているものと思う。

青陵中学区では、ここでできたつながりを今後も活かしていけるよう取り組んでいく一方で、諏訪中学区においてはいかに住民も参加しやすい魅力的な取組みを行っていけるかが課題であると思う。

委　員　長　　ありがとうございました。続けてオブザーバーよりご発言お願いしたい。

オブザーバー　　コミュニティプレイスあたごのオープンから３ヶ月が経ち、この７月から地域で出会った若い世代に運営を担っていただいている。また、愛宕地区の盆踊り大会が７月２８日、２９日に開催されたが、準備の段階からお手伝いさせていただき、当日はおにぎりを数百個提供する等、地元の自治会とも連携して取組みを進めている。

委　員　長　　ありがとうございました。

それぞれの説明に対して、意見や質問等はあるか。

委　　員　　先日のエリアミーティングに参加された方から聞いた話だが、無作為抽出で市から自分のところに案内が届き、どうして届いたのかなと思いながらも参加してみたら非常に良かった、と話されていた。無作為抽出で案内が届いて参加される方の割合は少ないのかもしれないが、市から案内が届くということによって、普段は忙しい現役世代の方でも地域に関わってみようかな、と背中を押してもらえるきっかけにもなると思う。送付数に比べた参加数は悪いかもしれないが、市からのアプローチを続けることによって新しい方が１人でも２人でも地域に出てきて、すでに活動されている方と混ざりあうことで、良い化学反応が生まれる効果があると思うと効率は悪くないのではないか。

委　員　長　　無作為抽出による地域参加の手法は現在市でどの程度活用されているか。

事　務　局　　エリアミーティングの取組みやエリアごとのアンケート調査等で無作為抽出の手法を活用して案内を行っている。市政全体では総合計画の検討を行うワークショップ等の行政計画策定時など、様々な取組みで無作為抽出の手法を活用している。

委　員　長　　エリアミーティングは無作為抽出された方のみが参加できるものか。

事　務　局　　無作為抽出のみならず、すでに地域で活動されている方にも呼びかけ、希望した方も参加している。

委　員　長　　いろんなルートからいろんな方が参加されてくるというのは非常に良いことと思う。

副 委 員 長　　今年度の各エリアの２回目以降のエリアミーティングでも無作為抽出が実施される

予定か。

事　務　局　　抽出作業の負担や郵送コストなどもあり、今年度は１回のみの無作為抽出を予定しており、１回目に参加された方が継続して２回目以降にも参加してもらえるようつないでいきたいと考えている。

副 委 員 長　　たまたま１回目に参加できなかった方に対し、アプローチする予定はあるか。

事　務　局　　１回目に来られない場合でも、次回以降案内を希望される方には連絡先を伺っており、その方たちにも次回以降の開催案内を行う予定である。

副 委 員 長　　参加希望の方には市から連絡を取ることができるということで理解した。

東寺方小学区で実施したアンケートでは回答率 10%未満であったと事務局から説明があったが、状況をお聞きしたい。

事　務　局　　エリアミーティングの開催案内に同封する形で、地域での暮らしぶりに関するアンケート調査を行ったが、今回は回答率が 10%未満であったため、結果の取り扱いについて中村先生と調整しているところである。

副 委 員 長　　エリアミーティングの開催案内と一緒に送られたため、少し目的がぼやけてしまったのかもしれない。

委　員　長　　アンケートの回答率が低かったとの事だが、無作為抽出で案内が送られてきた方がなぜ参加されなかったのか、といったことも今後もし調べられるようであれば調べてもらえると良いものと思う。単に都合が悪かった方、関心がないという方、出たかったけど何らかの要因があって出られなかった方等、様々いると思うが、調べてみると参加意欲のある方というのは一定数いるものと思う。ただ、実際には参加されていないということであれば、その要因分析をできれば良いと思う。

委　　員　　諏訪中学区の参加者数減の状況として、ブリリア多摩ニュータウンができたこと等で若い世代が入ってきたこともあり、差し当たっての課題感を感じていないと思われる世代も多くいること、その一方で現在住宅の建替えが進んでいることから、建替え予定地にお住まいの方が永山等に転居していることもあり、地域としてまとまりにくいような状況にあるのかもしれない。

オブザーバー　　あくまでも私の感想だが、マンションや団地ごとにはまとまりがある一方で、馬引沢・諏訪地域全体としてまとまっていくという意識が醸成されていないように感じる。

委　　員　　神社を中心にした地域のまとまりがあった時代と比べると、地域の関係性が少しずつ希薄になっている。

オブザーバー　　諏訪神社と馬引沢自治会は比較的人が被っており、これまで青少協や子ども会の取組みに関わってきた方たちは、高齢化しつつも頑張っていると聞いているものの、その子どもたちの世代が疲弊してしまい、地域をリードする層の交代時期に合わせて、後継者がいないのであれば一斉にやめてしまおうということで、青少協や子ども会の取組みをやめられたという風に伺った。

現役世代の方たちがこれであれば参加してみよう、と思えるようなコンテンツや取組み方を用意していかないといけないものと思う。

委　員　長　　地域活動をやめられずにずっと続けるということも大変であるので、どこかで区切りをつけるということも一つの選択肢ではあると思う。どのようにして上手くやめられた

のか、はたまた上手くやめることができず今問題が出ているのか、しっかりと見ていく必要があるものと思う。

全国的には条件不利地域では「村たたみ」をやらざるを得ない状況になっているところで、多摩でそのようなことが起こらないだろうし、起こさないようにした方が良いが、局所的にはそういうことも起こり得ると思う。その際にどのように対応していくのかということを考えることは重要である。

委　　員　学校跡地の建替えの話が進んでいて、今手を打たないと「あきらめていく」空気感が広がってしまうことを懸念している。ここで議論している知恵を現場に広げるには時間がかかる。受け手となる層をサポートしていかなくてはならない。

委 員 長　重要な指摘であり、地域で起きる建替えなど大きな変化は見越しておかないといけないだろう。

委　　員　建替えで住まいが移転してしまうと、前住地で頑張ってきた層も十分やりつくしたとさっぱりして身を引いてしまうことも考えられる。

オブザーバー　ＵＲとの関係など、自治会として機能できる層が限られる中で、そうした方が仮に諏訪から永山に移るとなると、新たなコミュニティをつくることに苦労することになるだろう。

委 員 長　こうした話を伺うと、区割りを越えていくことも考えていく必要もでてくるかもしれない。

３　検討内容の意見交換

委 員 長　次第３の「検討内容の意見交換」に移る。事務局から報告をお願いしたい。

事務局より、資料 28～29・参考資料４～６に基づき報告

委 員 長　協創ビジョンのイメージ資料を作成されている委員からもご発言をお願いしたい。

委　　員　協創のビジョンを市民に分かりやすく伝えることをイメージして、案の作成を行った。地域協創の全体像を示した図では、複数のステークホルダーが存在している中に市民がいることを表している。また、市民目線で見た場合のものとして、積極的に地域活動やボランティアに参加していなくても、すでにいろんな関係性の中で生きてきているということを表現している。いろんな人や団体と関わること、スイングバイをするということが自分の人生を豊かにする、ということを表現した。そして、それらの推進のエネルギーになるものが地域協創職員であるというイメージで資料を作成した。

委 員 長　自治基本条例の改正案、答申案、協創ビジョン案の説明があったが、次回の委員会で答申予定となるので、本日の委員会で案をまとめあげられるよう忌憚なくご意見をいただきたい。特に、協創の概念については、委員会の中でコンセンサスを形成しておきたい。

委 員 長　それでは、まず私から発言させていただく。「参画」「協働」「協創」の定義について、参画は市民が参画する、協働は市民、議会と行政が協働する、といったように「行動」を表すものとしての定義があるが、今回示されている協創の定義の案は「状態」を表すものとして示されている。事務局として意識して整理をされているところであるか。

事 務 局　前回の委員会において、「参画」「協働」「協創」は横一線に並ぶものではないという意

見をいただいたところである。委員長の発言のとおり、参画、協働は主語が市民や行政となるが、協創については多世代の参画や多分野の協働が創出されることにより実現していくものであるというように「状態」を表すものとして定義しようと検討したところである。

委　　員　「掘り起こす」の表現が引っかかる。掘り起こすと言われると上から目線のような感じがして、市民目線ではしっくりこない。

委 員 長　「掘り起こす」の表現については、「支える」「つなぐ」「掘り起こす」として元々私が地域担当職員制度における役割を示すものとして、行政側の目線として使った表現である。潜在的な力を持っているが、地域で役職に就いていない方、地域で活動しているけど行政側が見出していなかった方を地域担当職員が地域に入ることで掘り起こすという表現であるので、行政目線の表現ではある。

委　　員　市民目線で見た場合は違う表現の方が良いように思う。

委 員 長　どのような表現が良いだろうか。表立って見えていなかったものが見えるようになるといったニュアンスで表現されると良い。

オブザーバー　掘り起こされる対象となる若い世代が、掘り起こされた後にやることを見ていると、自分たちが思っている課題感に対して、自分たちの考えるアプローチで行動することができると継続していけるように思う。ただ、私が関わりのある地域の現場では、既存の地域組織が考える課題感と若い人たちが考える課題感とでずれがあるものもあり、それを一方的に求められてしまうと掘り起こされても、若い人たちが既存の地域組織の活動に興味を持たなくなってしまう。

委 員 長　「支える」「つなぐ」「掘り起こす」というのは、あくまでも行政側から見たもので、行政側が考える課題に対して、いい人材が地域にいるじゃないか、と見つけるような意味での掘り起こすということである。ただ、若い世代で継続して参加したいという方は、新しい価値で新しい社会のあり方を考えて取り組んでいきたいと思われている方が多く、必ずしも既存にある課題を解決したいと考えているわけではない。

「掘り起こす」という言葉は、新たに掘り起こされて地域課題の解決に取り組んで欲しい、そういう人に育ってほしいといったメッセージも含まれているものと思うので、上から目線の言葉であるように感じられるのだと思う。他の言葉で上手く言い換えられるものがあれば良いが、一方で課題があることも確かであり、若い世代の中にも地域の課題を解決したいと思っている方もいることから、そういう人たちは掘り起こされて地域とフィットすることもあると思う。

さらに、様々な地域課題を解決していくということだけでなく、新たなまちの魅力や地域の価値が創造されていくように協創という概念を検討しているので、このことを踏まえて言葉を検討してもらえれば良い。

オブザーバー　市民団体の担い手不足が深刻という表記があるが、この表現も引っかかる。行政や既存活動団体の課題に過ぎないのではないか。市民団体側の運営の課題もあるかと思うが、そのまま受け継いでくれる担い手がいないということが課題だとも読み取れ、市民団体側の課題に言及されていないように思うので、掘り起こすと相まって違和感を覚えている。

委　　員　資料 29 の「おわりに」の内容は、委員会からの市民への期待、市への期待というものであると思うが、ここまで言い切るような表現はどうか。

委 員 長　こうしていきたい、我々もそうだ、と言えるような書きぶりが良いだろうか。

委　　員　していきましょう、といった表現が良いかもしれない。

委　　員　協創の主語は市も市民も両方であるものと思うが、市がやるべきことと市民がやるべきことが混在しているように思うので、整理した方が良いと思う。また、市がやるということが多くなっているように思うが、「市民にこのようになって欲しいから市がこうやる」、といったような建て付けの方が良いように思う。

委 員 長　自治基本条例をつくった時は、自治を確立していくために市民が主体になって参加、参画、協働をしていくということを謳い、これまで推進してきた。その先に何があるかということを考えた時に、協創は市民自治が進んでいった先に成立するであろう我々の関係性を示しているものだと思う。協創社会といったように状態を指していくことになると思う。その時に市民としてやっていかなければならないこともあると思うし、行政としてもこうしたことをしていかなければならない、というものもあると思う。答申では、目指す状態の実現に向け、市に対して、しくみ・しかけづくりをしっかりやっていってくださいよ、と求めるという風になるものだと思う。

委　　員　この答申を市側から見ると、市はこれをやってくださいね、と書いてあるようにしか見えないと思う。こういった市民の活動や状態を求めたいから市はこういうことをするんですよ、ということがクリアになると、より協創の概念に近いのではないかなと思う。

委　　員　市民目線で第三者としてこの答申を読んだ時に、多世代、多分野が重要であるということはわかるが、そもそもなぜいろんな世代がつながらなければならないのか、といったことが示せると良いと思う。私自身、エリアミーティングに参加してわくわく感や幸福感等のポジティブな感情、それは多摩市が推進する健幸に通ずるウェルビーイングとも言える感情を得られたとともに、つながることで有事には地域で助け合えるセーフティネットということも重要なことであると感じた。また、子どもたちの未来が見えるような地域をつくっていくことが地域の持続可能性にとって重要であるということを示していければ良いのだと思う。

委 員 長　いろんな人と関わり合うことで、そうではない状態と比べて一段高まるような社会にしていこうということだと思う。そういう意味で「スイングバイ」という言葉はとても良い表現であると思う。「創発」と表現することもあるが、これをどう条例に規定していくかが難しいところではあるが、いっそのこと自治基本条例にスイングバイと規定してしまっても良いくらいである。

副 委 員 長　市民目線で見た際に、答申案は市への提言ということであれば、私は特に違和感を覚えなかった。一方で、協創ビジョンについては、市民としてどうしたら良いだろうか、といった市民へのヒントを書いておかないと、なかなか伝わらないものと思う。前回の協創ビジョン案にはMさんやＳさんといった実際の事例が記載されていたが、今回は記載がなくなっている。市民側の目線で考えると、そういった事例を書いたら良いと思う一方で、そういった事例を論文や行政への答申で書くと嘘っぽく思われてしまうので、伝え方が難しい。

委　員　長　　市が出していく協創ビジョンには、市民目線的な当事者の声を入れていくようにして、答申は簡潔につくるような棲み分けでもいいのではないかと思う。

委　　員　　私自身、約２年間自治推進委員として関わったことで、仕事における物の見方が変わった等、仕事にも活きており、自分にとってもポジティブな影響が出ている。地域でもあいさつできる人が増えて、困った時にはあの人に頼ればいいな、といったつながりができたことが大きい。地域に関わることで自分にもメリットがあるということ、地域に関わることで自分自身もまわりのみんなも幸せになるという風に示していければ良いなと思う。

委　員　長　　「掘り起こす」の表現について、地域協創の３つの柱は行政側がしくみづくり、しかけづくりとしてやらなければならないこととしてあるので、そのままにしておいても良いかもしれない。ただ、今の書き方で地域協創はこういう内容であると言われてしまうと少し違うようにもなるかもしれないので、構成は考えた方がいいかもしれない。

オブザーバー　　他地域と比べると団地が多いので地域活動に参加している人が多い地域ではないかと思うが、参加している方の多くは面倒くさいことをやっていると思われているものと思う。面倒くさいことに掘り起こされるという反応を示される方が多いのではないかと思うので、代わりの言葉が見つかるのであれば変えた方が良いと思う。

委　員　長　　どんな表現が良いか。

副委員長　　種をまく、とかはどうか。

委　員　長　　種をまくと言うと、最初からつくるといったイメージを持つが、現に活動しているがまだ見つかっていない人がいて、そこに上手く結びつけていこうという話であるので、少し違うだろうか。引き続き各委員で検討してもらい、もし見つからなければこのままの表現でも差し支えはないものと思う。

事　務　局　　地域協創は、市が行うべきしくみやしかけの環境整備のことを指しているので、代替の表現を考えていただく際には、市が主語であることを念頭に置いて検討いただきたい。

委　員　長　　答申案の「協議事項」の項目では、委員会で出された意見が記載されているものと思うが、出された意見であるということがわかるように記載してもらうか、意見が出された結果どういう結論になっているか、ということを記載するようにして欲しい。

委　　員　　地域協創職員のネーミングは、魅力的に感じないので、名称を公募してもいいのではないか。公募することで市民の認知度も高まると思う。

事　務　局　　現在試行として地域担当職員を置いたが、地域、エリアを担当するという職員というよりも、協創をつくり出していくような市民を応援する、サポートするような職員、スタッフであると表現していきたいと考えている。そのような名称を検討いただければと思う。

本日の委員会では、「掘り起こす」の表現について意見が多数出たものと思うが、地域協創については市の責務として市が行うものを表しているので、そのことを踏まえた表現を検討していただきたいと思う。また、答申案については、委員会より市長に答申いただくものであるので、答申内容を踏まえて市として協創ビジョンを作成していく予定である。

委　員　長　　協創ビジョンについては、旧来の堅い表現で作成するようなものではなく、市民により協創が伝わりやすいようパンフレットのような形で検討されておりそのような作り方で進めていきたい。答申についても従来のような報告書形式ではなく、パワーポイントでまとめるような形で進めていければ良いと思う。

おおよそ本日資料として出された原案と意見で進められればと思うが、特に追加の意見等ないか。

（意見等なし）

委　員　長　　それでは、これで作成を進めていき、事務局とも内容調整をさせていただきながら、次回第 12 回委員会において答申を市長に提出できればと思う。

４　その他

事　務　局　　本日出された意見を反映していくとともに、本日の委員会の場において出しきれなかった意見等については、意見表明フォームを用意したので、そちらに記入の上事務局に８月末までに提出いただきたい。

次回の第 12 回の日程は１０月１６日（月）の１８時から多摩市立中央図書館の活動室１にて開催する。

本日はこの後、コミュニティプレイスあたごに移動し視察を行う。

５　閉会